

講義名	対)19～健康運動科学理論/15～健康運動科学理論B			
担当教員	関 和俊 / 山本 隼年 / 大島 秀武			
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、個別に対応します。

本講義では、ヒトの特徴をふまえてスポーツ・スキルや運動に伴う身体諸機能の変化、運動刺激に対する加齢適応など日常生活や介護予防への応用を取り入れて理解する。また、基礎代謝量やエネルギー消費量などの測定によって、その測定方法や評価方法についての理解を深める。さらに、救急処置の理論と心肺機能蘇生術、運動障害とその予防法について学習する。

到達目標

運動やスポーツを通じて自己の健康管理能力を高めるために必要な知識を身につけることができる。
運動の現場で起こりうる救急の事態に対して適切に対応できるようになる。

提出課題

各単元が終了するごとに小テストを行う

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストについては、実施後すぐに解説・フィードバックを行う

評価の基準

取組状況・・・30%
小テスト（5回）・・・70%

履修にあたっての注意・助言他

健康運動実践指導者の資格関連科目です。
健康運動科学実習と併せて履修すること。

教科書	.使用しない。			
プリント資料及び参考文献	適宜、資料を配布する。 参考文献：健康運動実践指導者養成テキスト			

授業計画

1. 身体組成： 体脂肪の測定（インピーダンス法、皮下脂肪厚法）と評価
2. 身体の発育： 形態（身長、体重、骨格）、胸部角度の測定と評価
3. 循環器・呼吸器の働きと構造： 心電図・肺機能の測定と評価
4. 循環機能の調節： 様々な条件下での血圧の測定と評価
5. 運動時エネルギー消費量について： 安静時および運動時の酸素摂取量の測定と評価
6. 運動時エネルギー消費量について： 最大下運動時の呼吸循環機能、無酸素性閾値の測定と評価
7. 運動時エネルギー消費量について： 最大運動時の呼吸循環機能、最大酸素摂取量の測定と評価
8. ウォーキングとジョギング： ウォーキングとジョギングの歩容の測定と評価
9. 救急処置： 一次救命処置（心肺蘇生法）の理論と実技
10. 救命処置： 二次救命処置（AED）の理論と実技
11. 救命処置： 応急手当の理論と実技
12. 運動障害と予防： テーピング理論と実技（上肢）
13. 運動障害と予防： テーピング理論と実技（下肢）
14. 運動障害と予防： スポーツマッサージ
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：（2時間程度）
・ 自分で学んだ内容を参考に、次回講義に向けて、自分が興味・関心ある内容を調べておくこと。

復習：（2時間程度）
・ 種目上げ式内容もあるため、各自使用した資料などを参考に復習しておくこと。
・ 次回の講義に、質疑応答時間を設けるため、疑問点などを挙げておくこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標を達成することで、ディプロマ・ポリシーの子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野の基礎知識を身につけることができる。
到達目標を達成することで、ディプロマ・ポリシーの健康保持・増進やスポーツパフォーマンス向上などのための理論や指導法が身につく。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

なし

実務経験の有無及び活用

なし

備考

なし